

光の速さに近づくほど時間の進みが遅くなる 相対性理論は様々な場面で確認できる。

【前回までのあらすじ】

なんやかんやで学園のマドンナ千絵ちゃんの気持ち自分が向いていることを知らされるカジ少年。そんなドラマのような展開が実際にあるのだろうか？かと半信半疑のまま、次なるイベントを待つ日々。もはやブログ立ての恋愛ゲーじみたアレになってきているが、物語はいよいよ佳境を迎える。このあたりから『キャプテン翼』ばりにゆっくりな展開を見せるので、読者のみんなは注意が必要。センタリングからシュートまで10話ぐらいかかるのはざらであり、連載モノは時に時間調整という大人の事情が発生するものなのだ。

冬は寒い。暖房のない公立中学校の冬はなお寒い。しかし、カジの心は温かい。なにせ千絵ちゃんの気持ち自分が向いているんだもん。念のためもう一回言っとこ、なにせ今隣に座ってる千絵ちゃんの気持ち自分が向いているんだもん！

そして、カジの心の温度をさらに上昇させるイベントが目の前に待ち受けていた。その名も「体験ロッジ」。ロッジ、すなわち宿泊を体験するのだ。するのだ！って言われてもみんな意味わかんないと思うので、詳細な説明を。

この頃わが町では、大きな池のある公園に研修や宿泊体験ができる施設を整備。せっかくなので、市内の中学生に順番に宿泊体験をさせてみようというベンチャー企業が実施される。施設はそれほど大きな規模ではないので、各学校クラスごとに時期をずらして行われ、カジのクラス2年7組は2月中旬に開催されることになったのだ。既に体験ロッジを終えた生徒からは、やはりいくらい楽しかったという話を聞いており、我々2年7組のメンバーも皆期待に胸をアレスしていた。体験ロッジは金曜日の朝出発し、それぞれのクラスで計画した遊びなどで1日を過ごし、土曜日に帰ってくるというものだった。このそれぞれのクラスで計画した遊びというのがミソで、クラスの仲が悪いと盛り上がりが見せるが、仲がいいと大いに盛り上がりを見せるのだ。幸い2年7組は男女の仲が極めて良好であり、盛り上がりは必至、年末特番並みの盛り上がりを期待するのも当然だった。自分に傾きかけた千絵ちゃんの気持ちを一気に引き寄せたいカジ少年にとって、この宿泊ロッジこそ、一世一代の大勝負の舞台であったのだ。

華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

カール・グラー

講座

カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

大人の事情？それとも相対性理論？展開の遅い漫画たち

1 試合に半年以上かかる展開の遅さと人間技とは思えないシュートの数々がウリの『キャプテン翼』や、その時々のボス戦が果てしなく長い『ドラゴンボール』など少年ジャンプの人気漫画は展開が遅い傾向にある。しかし、さらにその上をいくのが野球漫画『アストロ球団』。全20巻でたった3試合しか行われないという、一試合完全燃焼ストーリーだ。なお『はじめる一歩』に関しては、改めて私が語るまでもないだろう。